

# 佐保会兵庫県支部だより

## 第 28 号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市北区北五葉2-3-8  
〒651-1131 TEL・FAX078-592-1464



須磨離宮公園 佐藤すなほ(S19家)画

### 大先輩！ 小泉ハツセさん

湯浅 夏子 (S29文地)

ベランダに立つと穏やかな春の海が目の前に広がり、後には六甲山の緑が迫る神戸の景観に私は一目ぼれし、まるで溝の中からダイヤモンドを拾ったように、この神戸の団地に当たってここを訪ねた時ずーっと住みたいと思いました。

いざ生活を始めてみると不便そのもの、戦前の神戸で生活したことのある義母の勧めで、私は何も知らずに生協の組合員になり、便利な組織だと思って利用していました。そんなある日、機関紙に大先輩の小泉ハツセさんのお名前が載っているではありませんか。たった一度だけ奈良女子大の講堂でお目にかかったあの小柄な先輩が、神戸の生協を始めるのに一役買われたのかと、急に生協が身近に感じられました。

その頃の奈良女子大卒といえど教職に就くのが常識でしたが、私は、神戸に生協が発達した秘密が知りたくて、せっせと生協通いを続けました。

「天上の星を仰ぎつつ、何時も足元を掃き清めることを忘れない」こう言って小泉先輩が始めた「家庭会」こそ生協の女性活動の原点でした。私はその流れを汲んで「くらしの中身を改善する」ために努力しました。台所の実態を為政者に知ってもらおう活動をする一方で、自分たちのくらしがよくならなければと学習し、賢い消費者づくりに励みました。

今や公助・共助・自助の安心システムが「兵庫モデル」と言われる時代です。生協は商品を売るだけではなく、毎日の暮らしを豊かにするところ、そして暮らしを支えているのは女性パワーです。小泉先輩と同じく生協活動が私のもう一つの生き方になりました。



# 平成16年度 佐保会兵庫県支部総会

平成16年6月6日(日) 神戸ポートピアホテル

支部長 秋里 三和子 (S27文)

万葉集に次のような有名な和歌があります。

藤波の花はさかりになりにつけり

奈良の都を思はずや君

今は藤波の季節ではありませんが、皆様はこの歌にどのような思いを抱かれるのでしょうか。私はこの歌を読むたびに、美しい寧楽の都に集い、いまは遠く離れた人びとへ呼びかける大宮人の声に、青春を共に過ごした同窓の人びとの声を重ねて聞くような思いがして、遠い時間の彼方にある奈良の日々に、甘美ななつかしさを覚えます。そしていつしか私の方からも「奈良の都を思はずや君」と同窓の誰彼に呼びかけたい気持ちが動くのを感じます。そう呼びかければ、いつも遠くから応えて下さる方々の声が聞こえてくるように思うのです。



出席者の加藤咲子さん(100歳)  
(兵庫区T15文)

この懐かしさと信頼、それが同窓会に寄せる私の思いの深いところにあるのだとこのごろ気づくようになってきました。効率が優先される現代に、このような思いはただの感傷に過ぎないと思われる向きもあるのかも知れませんが、でも、効率とは無縁であるからこそこの呼びかけとそれに応える互いの声は大切なのだと思います。そうした思いを込めて「奈良の都を思はずや君」と呼びかけながら、今年も一年に一度の支部便りを皆様にお届けしたいと思えます。

## 長寿・卒寿のお慶び

### 《長寿》

宅見まさよ 様 (T13理)  
高橋 テル 様 (T14保)  
加藤 咲子 様 (T15文)  
佐藤 か弥 様 (T15家)  
今井 泰子 様 (T15保)

### 《卒寿》

魚崎 茂子 様 (S10理)  
安場 英子 様 (S10保)  
高田 寛子 様 (S10理)  
宮川 セツ 様 (S10理)  
佐々木啓子 様 (S10文)  
乾 千枝子 様 (S10保)

## プログラム

物故者に対し、黙祷

開会のことば

支部長挨拶

新入会員紹介—自己紹介—

議長選出

議事

① 平成15年度事業報告

② 平成15年度会計報告

③ 平成15年度会計監査報告

④ 平成16年度役員紹介及び承認

⑤ 平成16年度事業計画

⑥ 平成16年度会計予算

⑦ その他

⑧ 記念品贈呈

⑨ 卒後55年のお祝い

⑩ 卒寿のお祝い

⑪ 長寿のお祝い

講演

廣瀬徹也氏

元アゼルバイジャン大使

「私の外交官生活」

来賓の挨拶

会 食

各部報告

① 本部報告

② 佐保短大報告

③ 大学婦人協会報告

④ 佐保婦人学級報告

⑤ 「若草」報告及び平成16年度委員紹介

⑥ 「睦会」平成16年度担当者紹介

⑦ 第28号「支部だより」編集委員紹介

⑧ 閉会のことば



— 講演 —

私の外交官生活

— ユーラシアと日本 —



元アゼルバイジャン大使

廣瀬徹也氏

廣瀬徹也氏は外交官として、

トルコ、アメリカ、カナダ、イスラエル、ロシア、アゼルバイジャンの国々で四十年間外交に携わってこられました。特にイスラム教国の情勢に詳しく、国学院大学で「イスラム世界と日本」の講座を担当されています。壇上の講師は「今朝出かける時、家内から大きな声でメリハリをつけて話さない」と助言された。」と会場を和やかな雰囲気包み、本題に入りました。

この日の講演内容は、

(1) 国際情勢の変化と

(2) イスラム文化で、

四十年間の外交官生活の情報の分析や地域の研究のレジメが配られました。旧ソ連邦の崩壊でユーラシアの地図が複雑になっているのに驚きました。「是非知ってほしいこと」として

(1) 東西冷戦終焉後の国際情勢が変化したこと

(1) 地域紛争や民族紛争が激化

(2) 世界平和にとって新たな

脅威（テロ・大型破壊兵器の拡散・破綻又は破綻寸前国家）

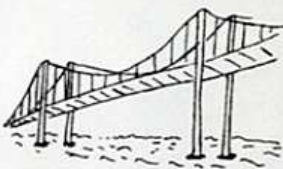
(3) 情報が発達し経済の流れが変化して新たな世界秩序の構築の必要性

(2) イスラム世界に対する偏見をなくすこと

文明の衝突を避けるために相互理解と対話は不可欠で「原理主義」はコーランに基づく国家を目指す考えであり武闘派は一部だけであることを理解する。などが指摘された。

また食文化に関しては、慣れると美味しくなったトルコ料理、コーヒの逸話、ヨーグルト・麦・果物の豊富さが体験をもとにしたエピソードが披露された。相手の文化を愛すると同時に日本の立場を毅然とした姿勢で主張し続けた外交官生活だったと締括られた。誠実な人柄が印象に残りました。

大橋 節子（S41文英）



平成17年度支部総会

平成17年5月1日（日）

シーサイドホテル  
舞子ビラ神戸

山陽舞子公園駅  
JR舞子駅 下車

— 哀 悼 —

喜多	綾 様 (S10保)	H15. 3.24没
平井	美 弥 様 (S8文)	H15. 9. 6没
中島	明 子 様 (S13家)	H15.11.17没
谷口	光 子 様 (S11家)	H15.12.31没
戸尾	友 紀 様 (T14保)	H16. 1. 2没
山本	博 子 様 (S15家)	H16. 1.25没
前田	タケコ 様 (S6家)	H16. 3. 2没
清水	千代子 様 (S8家)	H16. 3. 5没
立石	睦 子 様 (S9家)	H16. 3.24没



# 若草だより



## 若草の活動報告と予定

平成16年6月6日(日) 第12回若草定例会  
 7月10日(土) 孫中山記念館「移情閣」見学と昼食会  
 10月23日(土) 第4回逢うたむパーティー

## 早春の会

神戸港を一望できる神戸ハーバーランドで、楽しく昼食をご一緒に。  
 日時 平成17年2月19日(土) 11:30~13:30  
 場所 神戸ハーバーランドニューオータニ 17F「千羽鶴」にて  
 (JR神戸駅から南に徒歩5分 Hotel New Otani)  
 会費 5000円  
 申込先 荒木容子 TEL・FAX 078-791-0014  
 当日TEL 090-1132-1038  
 2月9日(水)までにお申込み下さい。

## 平成16年度若草運営委員

(須磨区) 三輪孝子 (S49理化)  
 土井 都 (H10理生)  
 堀 裕子 (H11文言)  
 (垂水区) 荒木容子 (S47理化)  
 八巻和子 (S50理数)  
 山本裕子 (S52文国)

## 舞子の海にたたずむ「移情閣」

7月10日、心配された雨も止み過ぎやすい天候の中、「移情閣」(孫中山記念館)を見学しました。平成12年に移転、復元された館は舞子の浜に美しくたたずみ、孫文と神戸の関わりや、建築主の呉錦堂の生涯等が展示されていました。八角三層の楼閣の窓を開ければ、眺望の素晴らしい、涼風の通り抜ける心地よさ、夕日の美しさ等味わえそう、住む人の心を和ませているのではないかと想像できました。インテリアも国際的で、天井の彫刻や書、解体中に見つかった再現されたタイル(英国製)、金唐紙等も見事で、人や技術の交流を色濃く残している館でした。

その後、舞子の浜を散策しながら舞子ビラへ行き「有栖川」で昼食をいただき、席を移してしばし歓談し、散会しました。出席者は10名。潮風に吹かれ舞子の海を満喫しました。

## 平成16年度新入会員

学部	氏名	地区
博前情	福田京子	三田市
博後人	拝田由華	川西市
理数	西川真央	尼崎市
文比歴	中西智子	川西市
理数	有島絵美	尼崎市
理数	行羅智子	三田市
生環住	三上亜希子	伊丹市
生環文	楠田祐子	西宮市
生環住	大富絢子	東灘区
生環住	奥西幸子	北区
生環住	三原祐美	芦屋市
博前社	廣永夏美	西区
博前行	森鼻里織	三田市
博前行	松村雅代	西区



移情閣にて

田中 幸恵 (S48家修住)

## 須磨の史跡その1

須磨離宮公園 (表紙絵)

昭和42年皇太子殿下(今上天皇)御成婚記念事業として完成。  
 もとは武庫離宮跡(大正三年総檜造りの建物)、戦災で焼失、石積堀、中門等に旧離宮の面影を残している。ダイナミックな噴水の欧風宮殿をイメージした日本でもめずらしい噴水公園。植物園にもつながり、子どもの森などもある。





# 睦会だより



## 平成15年度

### 「睦会」報告

古川起与子 (S35文国)

11月29日は、朝から冷たい雨が降りましたが、39名の参加者は、正午の開会までに次々と舞子ホテルおいでくださいました。昭和35年卒の当番は、JR・山陽電車の舞子駅からホテルまでご案内しました。はじめにお姿を見せられた八木静子様は、過日の宮津・舞鶴旅行のお疲れも見えないお元気ででした。

開会を前に、兵庫支部会員で今年物故された三人の方、喜多綾様、池内ひとみ様、中島明子様に謹んで黙祷を捧げました。続いて秋里三和子支部長のご挨拶、八木静子様の乾杯の音頭により、会食と懇談が始まりました。ホテル自慢の和会席料理に舌鼓を

打った後、先輩の方々から、日常の暮らし方やご病気体験のお話を聞かせていただきましたが、いずれも我が身に参考になる事ばかりでした。

やがてビンゴゲームなどに興じた後、校歌斉唱、記念撮影となりましたが、生憎の雨天でお庭での全員撮影が叶いませんでした。そのため流れ解散のようになりました事をお詫びいたします。

最後に出席者による即興の歌をご披露します。

●たのしみは若き仲間と集まりて気炎をあげて煙に巻くとき

●わがいはほはうめたて地に浮く十三階朝な夕な汽車笛におどろく

睦会平成17年度当番  
昭和37年3月卒業生

### 須磨の史跡その2

松風村雨堂

立ち別れいなばの山の峯に生ふる

まつとしきかば今かへりこむ

在原行平

行平が光孝天皇の怒りにふれ(887年)須磨に流され住まう。潮波みに来た二人の娘を、松風、村雨と名付け愛した。三年後都へ帰る行平と二人の別れの伝記は謡曲「松風」舞踊「潮波」に取り入れられている。二人は行平の無事を祈り庵をむすんだとされる。ここがその庵の跡。

## 平成16年度 地区リーダー会&もより会報告

会員数	地区名	氏名	卒業年学部	もより会報告	会員数	地区名	氏名	卒業年学部	もより会報告
81	東灘区	森口 房子	S43理数	16.5開催	50	明石市	寺田 翠	S37文幼	15.11開催
		平井 通恵	S47家被				橋本 陽江	S50理修化	16.11予定
38	灘区	加藤 慶子	S41文史	16.5開催	31	加古川市	永田登喜代	S45理数	16.5開催
		吉田 扇	S41家被		12	高砂市			
35	中央区	右田 俊子	S52理物	15.12開催	9	加古郡	田中 明子	S43文幼	
9	兵庫区	田中加代子	S47文教		13	三木市	森本 寿美	S49理化	16.5開催
13	長田区	赤松 和子	S52文教		9	加東郡	田中 幸恵	S48家修住	
44	北区	村上美枝子	S36家被	16.10予定	1	多可郡			
		衣笠 弘美	S41文体		3	西脇市			
44	須磨区	山田 桂子	S31文幼	17.春予定	2	小野市			
		中島 悦子	S34文地		3	加西市			
60	垂水区	松浦 博子	S36家食	16.10予定	0	美囊郡			
		大田奈緒美	S37理化		87	姫路市	山本 雅代	S42理化	16.秋予定
52	西区	山中 邦子	S53文英	15.11開催	6	相生市	小山 康子	S42家住	
		新小田淑子	S59里化	16.11予定	5	赤穂市			
54	尼崎市	藤岡 利子	S38家被	16.3開催	1	赤穂郡			
		正岡 康子	S49文教		1	佐用郡			
96	西宮市	永吉 和子	S34理化	16.11予定	7	龍野市			
		北川 清子	S40家食		15	揖保郡			
47	芦屋市	山崎 渺美	S39文教	15.10開催	13	神崎郡			
		福井千佳子	S40理化	17.秋予定	5	飾磨郡			
33	伊丹市	塚口 郁子	S35家住	16.3開催	3	宍粟郡			
		都築 暎子	S37家食		13	但馬地区	米田 純子	S40理動	15.秋開催
71	宝塚市	溝端 玲子	S41文地	16.11予定	22	三田市	河野 薫子	S41理化	16.秋予定
		山本 恵子	S53家生		3	篠山市	小林 嘉子	S37家被	
43	川西市	石原 範子	S47理物	16.春開催	8	氷上郡	足立 瑞穂	S42家修食	
							廣内 保子	S44理植	
6	川辺郡	多胡 京子	S39理数		12	淡路地区	由井 弥生	S42家被	16.5開催



## 私らしく生きる

大きな仕事に一区切りがつくと、人はみな立ち止まって来し方を振り返り、これで良かったかと考えます。昭和30年代に女子大を卒業された方々は、定年を迎えて、やりたくても出来なかったことに挑戦したり、次世代にバトンが繋がったかと思いは様々です。こうした同窓生の知られざる素顔に迫ってみました。

### 自分らしく生きる

吉江 順子 (S35文社)

私にとって自分らしく生きるとはどういう意味を持つのだろうか。今の暮らしがそれを意味しているとしたら、夫と結婚していなくても、自分の子供がいなくても、恐らくこういう暮らしをしてきたに違いない。

私には五人の子供がいるが、自分の子供だけでなく、子供を育てることに私は一生を費やしてきた。子供たちが自分自身で考え、生きていく力をつけてやること、それが私の使命であったように思う。ケニアの少年フェスタス、家庭養護施設の子供たち、自宅の塾に通ってきた子供たち、今考えると随分沢山の子供たちに関わってきた。

これらの子供たちに言えることは、自分で出来ることは独りです。独りで出来ることには私は手助けしない、どうしても困った時には最後の拠りどころにしてほしいということである。

次男が小学校五年生、三男が三年生、神戸ポートピア博覧会が開かれた一九八一年の夏休みのことだった。二人が行きたがったので、家にあった大人の入場券と子供の入場券を持たせた。途中遊び仲間の四年生の友達を誘って三人で出かけた。西宮北口駅で乗り換えるとき、三男のゴムぞうりの鼻緒が抜けてしまった。困って考えた末、駅の売店でチューインガムを買い、西宮北口から三宮までの特急電車の中でひたすら噛み続け、三宮駅で味の無くなった三人のガムをゴ

ムぞうりの鼻緒の穴に突っ込んで固定した。ポートライナーに乗り継いで博覧会のゲートに辿り着いたが、大人の切符一枚で二人が入れると思っていたのに、受付の人に駄目だと言われ三人は途方にくれてしまった。そこで二男が考え付いて、切符を買うために並んでいる行列の後の方に行き事情を話したところ、中年の男性が買ってくれたので入場することが出来た。その日は暗くなるまで遊んで、三男の足の裏は真っ黒になったけれど、チューインガムを詰めたゴムぞうりの鼻緒も抜けることなく、無事に帰ってきたのだ。

自分の頭で考えて自分の力で生きていく、決して他人の所為にしない、それが自分らしく生きる基本だと私は思っている。

### お手玉との再会

岡本 悦子 (S37家)

地域の人たちとの交流が大切だと思ふ年齢になり、第一歩として近くの地域福祉センター内にある神戸お手玉の会に入会しました。

平成九年に私たちの街に不幸な事件が発生し、地域の人たちも、

学校、家庭と同様に子供たちに繋がりを持とうということから「日本のお手玉の会」神戸支部が誕生しました。

月一回会員が集まり、お手玉遊び、作り方、子供や高齢者への指導の仕方、お手玉演舞などの練習をします。自分のためだけでなく、保育園、小・中学校、老人ホーム、障害者施設、各種のイベントに「出前お手玉」として出かけます。伝承遊びは素朴なものです。感動する心や創造力、活力を培うためには、子供時代に豊かな体験をすることが必要です。遊びを通して人と人が触れあい、同じ遊びに集中し、同じ気持ちで仲良く楽しんで大笑いするのがいいです。

現代のストレス社会は左脳中心なので、脳の疲労解消のためには両手を同じように使うお手玉遊びが有効なのです。

脳の活性化のためにも楽しみながら続けたいと思います。



花の区  
コスモス  
須磨区



## 邦楽との付き合い

齋藤 美智子 (S34数)

高校の非常勤講師をしていた五年前に、突然心臓の病を告げられて、仕事を辞め不安な毎日を送っていました。そんなある日「広報いたみ」で「シルバー琴教室」が開かれるとの記事を見て早速申し込みました。お琴は子供の頃母に勧められて少し習ったことがあり、大学では箏曲部に属していました。現在の奈良女子大箏曲部は、夏休みには合宿をして熱心に練習し、秋には定期演奏会を開いたりしているようですが、私たちの頃は寮の和室にお琴があつて、他の人が使つてない時を見計らつて練習し、井上令節先生のお宅でお稽古をして頂いておりました。半年後に下宿をしました。その小母さんのご好意でお琴を貸していただいたりしていましたが、あまり熱心ではありませんでした。三回生になると勉強も忙しくなつてお稽古に行けなくなりました。その後三十年間のブランクがあつて、いつか暇になったらもう一度お琴を弾きたいと思つていましたので、前述のように良い機会に恵まれて自

然に入つていくことが出来ました。

五年後には三絃も始めました。地歌ではお琴と三味線を同時に習うことになっていきます。地歌が基礎になり、宮城道雄以来の比較的新しい曲や、現代の若手作曲家の作品を楽しく勉強しています。

現在「箏明会」に属して、年に数回は演奏会に参加して合奏し、敬老会、ふれあい給食の新年会など、色々なイベントにも参加します。今になって考えてみますと、こんな楽しみが持てたのも病のお陰かも知れません。

## 中国人との交流

中島 悦子 (S34文地)

私は三宮の神戸国際コミュニケーションセンター(KICC)で、日本語のボランティアをしています。

十年余り前に、頭の体操の積りで中国語を習い始めたのですが、なかなか上達はしないものの、折角勉強しているのだから何かに活用したいと思ひ、ボランティアの登録をしました。KICCでは、日本語や日本に関する様々なことを学びたい外国人にボランティアを紹介し、六ヶ月間活動すること

になっています。

私のお相手はいつも中国人で、留学生、仕事で来日した方やその家族などです。漢字が共通しているといつても、体系が全く異なる日本語の習得には皆さん苦労しているようですが、どの方もとても真面目で、和やかに楽しく活動しています。中国人はおおらかで率直な人が多く、学習の合間に、自分や家族のこと、喜びや悩みなどを話してくれれます。それらの話を聞いてみると、中国社会の現状や、中国人のものの考え方の一端を知ることが出来たとともに面白いのです。

私の場合は中国に関心があつたというよりも、深い意味を簡潔に表現できる中国語に興味があり、気の向くままに読んだり聞いたりしているうちに、中国や中国人が少しづつ近くなつて来たように思っています。

中国人との交流で、改めて感じるのは国民性の違いで、実にそれぞれが一長一短だということです。日本人にも、長所が色々ありますが、一方で、相手に教えられることも多いです。

## 歌に惹かれて

植田 治子 (S32文英)

私は今年「古希」を迎えましたが、在職中には、したくでも忙しくてやれなかつたことを少し学びかけています。それはカルチャースクールで、ポピュラーソング、ジャズなどを、若い人たちと一緒に楽しく歌うことです。

私たちの若い頃、戦後すぐアメリカから入ってきて巷に溢れていたポップスやジャズなどを歌っていると、懐かしさで胸が一杯になります。学生時代は食べるもの、着るものは不自由でしたが、青春の氣に溢れ、いつも目をキラキラさせていました。あの頃の思い出がよみがえってくるのです。また、声を出して歌うことはとても健康に良いのではないかと思われまふ。思いがけない夫の早逝という悲しい出来事を持ち越えられたのも、佐保会の先生方のご助言が大きな励みになりました。これからは最寄会や各種の催しで、私の歌をこ披露できたらと夢見ています。





# さわやか便り

## ボリビアでの生活

藤井 稚津子 (S63文教)

平成十二年七月から十四年八月まで、青年海外協力隊の日本語教師隊員として南米ボリビアへ行く機会を得ました。いわゆる派遣法の適用を受け、在職中の高校に籍を置いたまま協力隊に参加、帰国後は同じ学校に戻って勤務しています。二年近くたっていますが、その時のことをここではお話させていただきます。

ボリビアと聞いて皆様は何を思い浮かべられますか。アンデス山脈、チチカカ湖、インカ文明、あるいはフォルクロレなどが一般的でしょうか。けれどもボリビアには別の顔もあります。それはアマゾン。私の活動場所はブラジルとの国境近く、アマゾン流域の熱帯雨林を切り開いて作った川沿いの町でした。

そこで日本語教室を開き、子どもたちと遊び、地元の方々と交流してきました。なぜ、そんなところで日本語を？と思われることでしょう。

実はボリビアへの日本からの移民の歴史は百年を数えます。戦後の大

移住地もありますが、私の任地はそれよりも前、ペルーへの契約移民だった人々が住み着いた町です。ここでは三世どころか、四世、五世まで誕生しています。一世から地元の方との結婚が進んでいて、日本語は完全に外国語、日本的な文化や習慣もほとんど残されてはいません。現在は「デカセギ」への意欲から日本語学習熱が高いようです。

約二年の滞在中、私はずっと同じ家庭にホームステイさせてもらいました。九人兄弟の末っ子、家族の一員として受け入れていただき感謝しています。初めは家族が多く、また、みな同じ顔に見えて、見分けがつくようになるのかと心配でしたが、明るく陽気であり物事にこだわらない土地柄なせい、ほどなくなじむことができました。

今となつては懐かしい習慣がシエスタと呼ばれる昼寝です。昼食が正餐で通常家族全員が家に戻ります。食後はゆっくり休み、三時頃からまた午後の仕事に出かけるのです。仕事の効率は悪いでしょうが、実にゆとりと毎日を過ごすことができます。

昼間の日差しは本当に強烈で、シエスタはなくてはならないものでした。もう一つ、今ならもうできないかもしれないと思うのが水シャワーです。大体一日に三回はシャワーを浴びていましたが、よほど暑い日を除くと、えいやつという思い切りが必要だったことを覚えていきます。

食べ物で困ることはありませんでした。主食はお米で、脂で炒めてから炊きます。ユカ芋やパン、エンバナードもポピュラーでした。油脂、塩分たっぷり、とにかく食べる量が多く、毎月一キロずつ着実に体重が増加、太るほどに暑さに適応できるようにな気がしたものです。二年間で食べた肉の量は、それまでの総摂取量を上回っていたでしょう。朝、昼、晩と肉食が続くのも珍しくはありませんでした。そして心から堪能したのが果物です。パイヤ、チリモヤ、アチャチャイル……、今思い出しても魅力的です。マンゴの木が町じゅうにあり、実りの季節はわくわくしました。ロコトという唐辛子の猛烈な辛さも忘れがたいです。

今、このように二年間の生活を振り返ってみて強く思うのは、月並みだけれど家族の大切さについてです。家族を愛する心がその人の芯の部分にあるというのは、いろいろな人間関係を作っていくうえでも本当

に重要なことですね。家族と過ごす時間を大切にする、その時間を楽しむ……、私たちが見習わなければならないことだと思います。遠いところへ赴いて、逆にとっても身近なところに気づかされる、そんなボリビアでの生活でした。(明石市在住)

## 小さな一歩

布村 沢子 (S61家生)

今年で九年目になる通信制高校での非常勤講師の仕事に加え、自宅で小学生を相手に英語を教え始めて一年が経とうとしています。夫の転勤で、教師を辞めてアメリカで三年暮らし、「英語は好きだし、家庭科だけ教える仕事は長くしているから大丈夫だろう」と気楽な気持ちで踏み出した「小さな一歩」。これが、こんなにも頭を悩ますことになろうとは……。

経験も少なく、レッスンの時間もたくさんは取れないからと、月謝は安くし、子ども達の友達を中心に口コミで生徒さんを募集し、低学年対象に四人で始めたクラスも、今は、自分子どもも含め生徒数が十三人になり、週三回のレッスンと高校での講師の仕事とをこなす日々。

レッスン中の子どもたちは、素直で元気で楽しい時間を過ごせます



(高学年になると塾との両立で疲れている子も増えますが)。ただ、子どもたちがやりたい英語のゲーム・

私自身が目指すレッスン・保護者の方が望む読み書きの訓練、それらがうまくかみ合わず、止めていった子もいます。生徒の感じる「面白いレッスン」と私が思う「充実したレッスン」にもずれがあり、いろいろな本を読んだり、パソコンで情報収集をしてどうすればいいかを考え込んでしまう日々。

ようやく、ただうまく英語を教えればいいのではなく、「人まねでなく自分自身がクラスに対して、きちんとした方針や夢を持つことが大切なのだ」と自覚して、改めて、小さな一歩を踏み出したところです。

今、巷では、小学校への英語の導入がとりざたされています。多くの英語講師が参加するメーリングリストなどでも、賛否両論です。英語教育を家庭の経済状態に関係なくすべての児童にという意味では賛成。でも、実際にボランティアなどで小学校での英語活動に参加されている講師の方々は、小学校の先生方の忙しさ・英語導入への意欲の低さ・準備時間の少なさなどの不安要素が多すぎるという意味で反対。どちらも現実なので成り行きを見守りたいと思います。

(尼崎市在住)

## ミュージアムミュージアム

吉本 純子 (S62文教)

みなさんにとって、博物館、美術館はどこなところですか。暗くて静かで、小さな子どもを連れて行くのは気が引けるのでしょうか。

私は、今年三月まで、兵庫県立歴史博物館に五年間勤務しました。姫路城跡内にあり、お城を間近に望める博物館です。博物館勤務をきっかけに、公私ともに様々なミュージアムを訪ねました。その中から、親子で楽しめるおすすめミュージアムをいくつか紹介したいと思います。

アメリカのチルドレンズミュージアムはとても印象的でした。とにかく賑やかで活気に満ち、理屈抜きに



ボストンチルドレンミュージアム「プレイスペース」

楽しいのです。小さな子どもにもわかりやすく、直接触って楽しめる「ハンズ・オン展示」を採用しています。例えば、ガラスケースに収まっている普段は見えない後ろ側を、反射鏡を操作させて見えるようにしたり、臭いがかせたり、クイズに答えさせたりと、興味をそそのけ掛けがこちらにあります。展示がぐっと身近なものになります。そして子どもたちは、遊びながら、触れながら、知らず知らずのうちに学んでいくのです。

子どもの……と言っても、ボストンチルドレンズミュージアムにある日本の展示はかなり本格的です。京都から五人の大工が、ボストンに住み込み五年もの歳月をかけて移築した「京の町屋」や、実際に使われていた東京の地下鉄車両の展示があります。ボストンの子どもたちは、日本の電車のシートの柔らかさや、車内の美しさに驚くのだそうです。詳細に調査研究された「本物」の展示には説得力があります。

日本にもチルドレンズミュージアムがあります。学校を再利用した篠山チルドレンズミュージアムには、教室の真ん中に巨大なバケツの形をした「食わず嫌い神社」があり、お参りすると好き嫌いがなくなるそうです。また新しい棟には、サンフラ

ンシスコのエクスポラトリウム(科学館)制作の一台?百万円もする霧発生装置などが数台並んでいて、趣の全く違うおしゃれな空間となっています。

キッズプラザ大阪には、テレビスタジオがあり、ニュースキャスターやカメラマンを体験できます。また世界各国の民族衣装のコーナーや、子ども料理教室などのワークショップも充実しています。

それから、滋賀県立琵琶湖博物館もおすすです。琵琶湖をテーマにした総合博物館ですが、子ども向けにディスプレイルームという、独立したハンズ・オンルームがあります。この中では、大きなザリガニの模型を操作したり、楽器を鳴らしてみたり、回りに遠慮しないで自由に遊べます。それ以外にも昭和の家屋、生活をそのまま展示したコーナーや、淡水魚の水族館もあり、親子での会話が弾みそうです。

近頃では、大人の博物館、美術館でも子どもを対象とした展示や学習プログラムを積極的に行うようになってきました。ミュージアムは決して敷居の高いところではなくなっています。ぜひ、お近くのミュージアムにおでかけください。そして、心豊かな時間を楽しんでみませんか。

(姫路市在住)



# 佐保婦人学級

平成16年度・17年度運営委員

鈴木 久子(06-6491-9481)	川口登美子(072-793-9624)
寺田 翠(078-911-5364)	射延 瑞枝(0794-84-1998)

入会は随時 佐保会員以外の入会も歓迎  
会費 年間3000円 当日のみ参加の方500円



H16.バスツアー 淡路島にて

## 平成16年度11月～17年12月 年間予定 (第22～23回)

月日	内容	会場	時間	講師(敬称略)	備考
H16 11. 9 (火)	童謡「赤とんぼ」の里を訪ねる	バスツアー 小京都龍野 醤油工場見学	集合8:30 三宮東急イン前		費用6000円
12.14 (火)	楽しい旅について トーク	神戸市立 三宮勤労会館	13:00～15:00		
H17 2. 8 (火)	古典を楽しむ 「平家物語」	神戸市立 三宮勤労会館	13:00～15:00	林 茂代	
3. 8 (火)	閉講 料理 「春のおもてなし」	生活創造センター 4階 創作工房	11:00～15:00	生活創造センター 専門講師 荻田 美代	材料費1000円
4.13 (水)	開講 文学「古事記」	神戸市立 三宮勤労会館	13:00～15:00	笹原 順子	
5.11 (水)	新緑を訪ねて	川西市 青山文学館	集合9:00 阪急三宮東口		
6. 8 (水)	手芸「小物作り」	神戸市立 三宮勤労会館	13:00～15:00	都筑 久美子	裁縫道具
7.13 (水)	夏の料理	生活創造センター 4階 創作工房	11:00～15:00	生活創造センター 専門講師	材料費1000円
9.14 (水)	文学「俳句」	神戸市立 三宮勤労会館	13:00～15:00	古川 起与子	
10.12 (水)	朗読「児童文学」	神戸市立 三宮勤労会館	13:00～15:00	永尾 照美	
11. 9 (水)	バスツアー 紅葉の宇治を訪ねる—平等院, 源氏物語ミュージアム		集合8:30 三宮東急イン前		費用6000円
12.14 (水)	書道「百人一首」	神戸市立 三宮勤労会館	13:00～15:00	川口 登美子	細筆、半紙

### 「佐保婦人学級」の係から

寺田 翠 (S37文幼)

春は野あざみを

夏は水際のおもだかを…

林のうつぼぐさを…

秋はまつむし草をみずひき草を

冬は裏の笹の一枝を…

うすぐらい茶の間の食卓の

コップに投げ入れた母

わたしたちはいつも

コップに灯る四季を感じた

サトウハチロー

国内事情、世界情勢ともに厳しく殺伐とした世の中に日本の未来を憂うのは当然なのでしょう。私自身、毎日が何か慌ただしく何かを追っかけられている様で沢山の事がある様で安堵感がないのです。冒頭の詩のように豊かな心で悠長に四季を愛でることができたらと思うのです。でも佐保婦人学級に参加しますと、華やかさはないけれど、どこか暖かい雰囲気包まれほんのり心に灯りが点つたように思えるのです。それは、会員の皆様の佐保会に対する深く熱い思い入れと先輩後輩の縦の絆が固いことに因るものでしょうか。上記の全文をご覧下さいませ随時ご参加下さいませようお待ちしております。



## 事務局便り

## 平成15年度事業報告

- 第11回「若草」
- 第21回「佐保婦人学級」
- 5月25日(日)支部総会及び第11回「若草」定例会(於・神戸ポートピアホテル)
- 8月22日(金)地区リーダー会
- 11月1日(土)第27号「支部だより」発行(北区担当)
- 「佐保会兵庫支部名簿」発行
- 11月29日(土)「睦会」(於・舞子ホテル 昭和35年卒業生担当)

## 平成16年度事業計画

- 第12回「若草」
- 第22回「佐保婦人学級」

- 6月6日(日)支部総会及び第12回「若草」定例会(於・神戸ポートピアホテル)
- 8月25日(水)地区リーダー会
- 11月1日(月)第28号「支部だより」発行(須磨区担当)
- 11月14日(日)「睦会」(於・舞子ホテル 昭和36年卒業生担当)

## 報告

- 3月24日(水)佐保会新入会員歓迎の辞(於・大学卒業式)
- 本田 三洋子さん(中央区S52 家住)
- 5月14日(金)第9回在学生・卒業生交流会
- パネリスト 橋本陽江さん(明石市S50理修化)
- 寄付10万円 高橋テルさん(明石市T14保)

## 平成16年度 支部役員

役名	氏名	卒業年学部	住所
支部長	秋里三和子	S27文	北区
副支部長	川口登美子	S39家食	川西市
事務局	荒木 容子(若草)	S47理化	垂水区
	笹原 順子	S32文史	灘区
	鈴木 久子	S37家食	尼崎市
	寺田 翠	S37文幼	明石市
会計監査	射延 瑞枝	S42家被	三木市
	加藤 澄子	S31文幼	垂水区
本部理事	藤岡 利子	S38家被	尼崎市
	秋里三和子	S27文	北区
本部評議員	貴田 康乃	S29家住	西宮市
	大久保勝美	S31文国	北区
	光長紀美子	S34理生	芦屋市
	寺田 翠	S37文幼	明石市
佐保会学園理事	浅野 晶子	S23家	中央区
佐保会学園評議員	大田奈緒美	S37理化	垂水区
大学婦人協会役員	中村 京子	S32理物	東灘区
	岩城 尚子	S33文国	芦屋市
	吉江 順子	S35文社	宝塚市
	樋口由美子	S49家被	芦屋市

## 平成15年度会計報告並びに平成16年度会計予算

収入の部			支出の部			
費目	平成15年度決算	平成16年度予算	費目	平成15年度決算	平成16年度予算	
前年度繰越	2,852,716	3,023,964	本部会費	875,500	930,000	
会費	2,158,500	2,270,000	総会補助費	165,946	180,000	
内訳	本部会費	875,500	通信印刷費	155,794	260,000	
	支部会費	1,283,000	交通費	116,650	85,000	
預金利息	142	50	事業費	名簿印刷費	67,300	150,000
本部より補助	56,240	50,000		名簿送料	185,860	5,000
寄付	156,800	0		支部だより印刷費	200,000	200,000
合計	5,224,398	5,344,014		睦会補助	50,000	50,000
				若草補助	50,000	50,000
				佐保会婦人学級補助	50,000	50,000
			リーダー会経費	48,931	70,000	
			もより会補助	96,200	110,000	
			慶弔費	52,910	100,000	
			事務費	85,343	75,000	
			予備費	0	5,000	
			小計	2,200,434	2,320,000	
			次年度繰越	3,023,964	3,024,014	
			合計	5,224,398	5,344,014	

## 資産内訳 (H16.3.31現在)

定額郵便貯金	1,850,000
郵便貯金	73,532
振替貯金	1,019,890
現金	80,542
計	3,023,964

## (別途友愛貯金)

定額郵便貯金	891,000
郵便貯金	6,873
現在高	897,873



# 須磨歴史散歩

## 青葉の笛

須磨浦公園の松林に「戦いの浜」の標石があり、ここが源平一の谷合戦跡である。

一一八四年の源平の戦いで熊谷次郎直実は、若武者の首を切り落すとす。若武者の腰に下げていた錦の袋には、鳥羽法皇から平忠盛に授けられた小枝（さえた）の笛が入っていた。若武者は忠盛の孫の敦盛であった。我が子小次郎と同じ十六歳。

須磨寺には敦盛と直実の海際の対峙の場面を像に再現した「源平の庭」。宝物殿には敦盛の遺品と伝えられる「青葉の笛」。また敦盛の木像、石塔の首塚もある。本堂の庭には義経腰掛けの松の古株など源平ゆかりの史跡が数々ある。

「須磨寺やふかぬ笛きく木下闇」という芭蕉の碑。  
唱歌「青葉の笛」の音楽碑（楽譜とキーボード付き）もある。



作詞 大和田建樹  
作曲 田村 虎蔵

一の谷の 軍破れ  
討たれし平家の 公達あわれ  
晩寒き 須磨の嵐に  
聞こえしはこれか 青葉の笛

更くる夜半に 門を叩き  
わが師に託せし 言の葉あわれ  
今わの際まで もちし簞に  
残れるは 花や今宵の歌

明治三十九年「敦盛と忠度」という題名で発表。

忠度は清盛の弟、都落ちの途中中師事していた藤原俊成に和歌を託し、一の谷の戦いで戦死。

①薩摩の守忠度の歌 千載和歌集  
さざ波や滋賀の都は  
荒れにしを昔ながらの山桜かな

②平家物語 忠度最後の段  
行き暮れて木の下陰を  
宿とせば花や今宵の主ならまし

昨年の支部だよりのアンケートでは、好きな唱歌の一つに「青葉の笛」が選ばれ、須磨のもより会ではこの歌を歌い、終わる。

山田桂子（S31文幼）

## 淡路島

通う千鳥の

鳴く声に

幾夜寝覚めぬ

須磨の関守

源 兼昌

## 須磨ゆかりの句

●正岡子規

暁や白帆過ぎ行く蚊帳の外

●松尾芭蕉

蝸牛角ふりわけよ須磨明石

●与謝蕪村

笛の音に波もよりくる須磨の秋

●伊丹三樹彦

くらやみになおも花散る平家琵琶

●尾崎方哉

こんな良い月をひとり見て寝る

●五十嵐播水

香煙にふりこむ雪や初大師

## 編集

## 後記



二月の下旬に初顔合わせをしてから、馴れない作業に議論を重ねているうちに、炎暑を迎え、やっと原稿から手が離れました。

出来るだけ須磨の匂いがだせるようにと、表紙の絵やコラムに須磨を取り上げました。またページごとに世代の息吹が感じられるようにと、チームを組んで編集しました。仕事と子育ての多忙な世代の人たちも時間を作って参加してくれたのは、とてもたのしい限りでした。

特集はできるだけユニークなものにと考えましたが、昭和三十年代に卒業された方々の生き方を「私らしく生きる」としてまとめました。「なーんだこれくらいなら私だってー」と思ってくださいれば幸いです。  
(湯浅夏子)

## 須磨区編集委員

湯浅 夏子 山田 桂子  
中島 悦子 岡本 悦子  
大橋 節子 星野 美佳